

## 協働事業評価書

### 事業名「みんなで子どもたちを守ります！～下新倉小学校学区のフィールドワークと安全マップづくり～」

事業主体：NPO法人こども・みらい・わこう

担当課：学校教育課

評価者：協働推進懇話会（委員7名）

評価：◎他のモデルとなりうる ○適当である △工夫が必要

評価項目	評価【◎○△】	評価内容	評価【◎○△】	コメント
①事業の評価	◎ 3人 ○ 4人 △ 0人	事業スケジュール	◎ 1人 ○ 6人 △ 0人	<p>■地域住民を巻き込む形でマップ作りを実現できたのは良い成果と捉えられる。</p> <p>■事業スケジュールが予定どおりにいかなかったとはいうものの、成果は大きかった。</p> <p>■下新倉小学校開校に伴い、通学路の安全性については、特に住民の関心が高かったところに、開校前の学校説明会で配布するスケジュールで実施できた効果は大きいと考える。</p> <p>■実態に合わせて進捗を管理しており、適当であると思われる。</p> <p>【提案】</p> <p>■紙媒体、Webとも、親しみのあるマップができたといえる。ただし、平面的な情報ではイメージするのに限界があるので、マップを使った現地確認の機会をもつことが、マップが真に役立つうえで重要になってくる。</p>
		事業成果	◎ 4人 ○ 3人 △ 0人	
②協働の評価	◎ 5人 ○ 2人 △ 0人	プロセスの積み重ね	◎ 4人 ○ 3人 △ 0人	<p>■マップがどれだけのアクセスを得て、実際に活用されるか否は、官民連携のあり方による。積極的な行政側の対応に期待したい。</p> <p>■専門性のある団体・企業をネットワークできたのは、NPOらしい役割を果たせたといえる。また、市の関係各課が連携できた点も高く評価できる。</p> <p>■住民の中の専門スキルのプロボノも受けて、保護者など多様な立場の市民と行政をネットワークし、NPOならではのコーディネートで事業を進めることができた。ただ、フィールドワークに参加した市民を検討作成の段階で十分巻き込めなかったのは残念なところであった。フィールドワークに参加した市民が最も成果を感じる当事者となるので、十分巻き込むことでこの事業の趣旨目的に沿った今後の展開が期待できる。</p> <p>■団体、市、学校、専門機関、関係機関、住民というたくさん人が関わる協働となった点が素晴らしい。成果物の出来栄が良く、関わった住民の満足度の向上につながると思う。</p> <p>■事業を進める中で、様々な団体や個人を巻き込みながら行うことで、今後にも活かすことができるつながりが生まれている点は高く評価したい。</p> <p>【提案】</p> <p>■今後3年間で、既存8小学校区でも同様の活動を展開するとのことで、ぜひ実現していただきたい。いずれ、学校区を超えたマップ交流会などできると面白い。</p> <p>■今回作成した「歩いてみよう みんなが通う道」のマップは、今後も活用できると思われるため、児童センターやコミュニティセンターなどに提示したらどうか。多額の費用を費やしたこともあり、現在～未来に向けて、安全で安心できる道路のPRをすることは重要と思われる。</p>
		事業の広がり	◎ 4人 ○ 3人 △ 0人	
		市民満足度の向上	◎ 0人 ○ 7人 △ 0人	
		協働基本原則	◎ 2人 ○ 5人 △ 0人	
		協働の成果	◎ 4人 ○ 3人 △ 0人	
③総合評価 上記①、②以外のコメント (団体や市へのアドバイスを含めて)				<p>■このマップを使っの使い方の説明会等の開催など、せっかく作ったものの今後の周知活動が重要。この活動が今後他校にまで広がるといことで、先の展開を生み出したことは大きな成果である。それぞれが十分に目的に沿った事業成果、波及効果を生み出すためにも、作って終わりにならないよう、当事者の十分な巻き込みが重要。</p> <p>■マップを作成する過程のまち歩きに参加した人から、地域の方がマップに載っている以上にいろいろなことを教えてくれたとか、雨宿りに軒先を貸してくれた人がいるというすてきなエピソードを聞いた。協働事業が、和光市の魅力を草の根から見つめなおす活動になることはたいへん意味があると思う。</p> <p>【提案】</p> <p>■できたマップを誰がイニシアチブをとって活用していくのかが大事である。下新倉小学校及びPTAが「自分たちのもの」という意識をもって活用してくれるかがカギになるだろう。そういう意味でも、マップ作りに携わった中からPTAのリーダー層が生まれたりするとなお良い。子どもの見守りについて、自治会等との協力関係を築くツールにもしてほしい。</p>